

JAPAN PRIZE NEWS

財団法人 国際科学技術財団

THE SCIENCE AND TECHNOLOGY
FOUNDATION OF JAPAN (JSTF)

〒107-0052 東京都港区赤坂二丁目17番22号

赤坂ツインタワー東館13階

Tel.03 (5545) 0551 Fax.03 (5545) 0554

E-Mail info@japanprize.jp

URL <http://www.japanprize.jp>

No. 36
2006 (平成18)年5月



2006年(第22回)日本国際賞は 英国と日本の科学者が受賞 天皇皇后両陛下をお迎えして授賞式



(財)国際科学技術財団が、世界の科学技術の進歩に大きく寄与し、人類の平和と繁栄に著しく貢献した人々を顕彰する2006年(第22回)日本国際賞の授賞式が、4月20日(木)、東京・国立劇場で行われました。

今回の授賞対象分野は「地球環境変動」と「治療技術の開発と展開」の2分野で、世界各国の学者、研究者から地球環境変動分野が102件、治療技術の開発と展開分野が203件、計305件の推薦を受け、この中から英国、日本の2博士が受賞者に選ばれました。

「地球環境変動」分野では衛星観測による大気構造・組成の先駆的研究並びに気候変動アセスメントへの国際的取り組みにおける貢献により、ハドレー気候研究センター名誉科学者及び同センター前理事長のサー・ジョン・ホートン博士(英国)が、また「治療技術の開発と展開」分野では、スタチンの発見と開発に貢献した東京農工大学名誉教授・株式会社バイオファーム研究所代表取締役所長の遠藤章博士(日本)が受賞しました。

日本国際賞

「日本国際賞」は、全世界の科学技術者を対象とし、独創的・飛躍的な成果を挙げ、科学技術の進歩に大きく寄与し、もって人類の平和と繁栄に著しく貢献したと認められた人に与えられるものです。

受賞者は、国籍、職業、人種、性別等は問いませんが、生存者に限られます。

この賞の対象は、科学技術の全分野にわたりますが、科学技術の動向等を勘案して、毎年2つの分野を授賞対象分野として指定します。

本賞は、原則として各分野1件、1人に対して授与され、受賞者には、日本国際賞の賞状、賞牌及び賞金5,000万円(1分野に対し)が贈られます。

「地球環境変動」分野

授賞業績：衛星観測による大気構造・組成の先駆的研究並びに
気候変動アセスメントへの国際的取り組みにおける貢献

サー・ジョン・ホートン博士(英国)

ハドレー気候研究センター名誉科学者及び
同センター前理事長

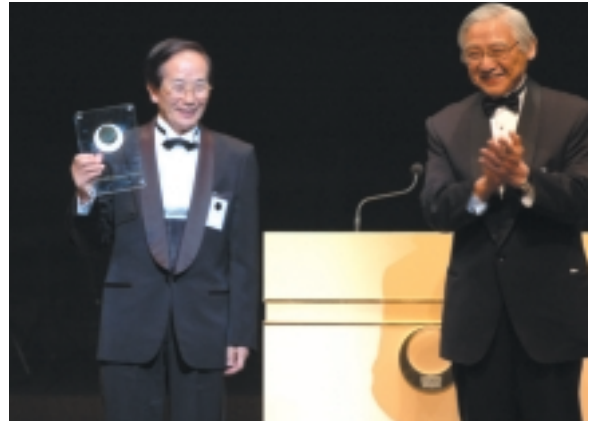


「治療技術の開発と展開」分野

授賞業績：スタチンの発見と開発

遠藤 章 博士(日本)

東京農工大学名誉教授
株式会社バイオフーム研究所代表取締役所長



授賞式

授賞式は天皇皇后両陛下をお迎えし、河野洋平衆議院議長、扇千景参議院議長、松田岩夫内閣府特命担当大臣(科学技術政策)、小坂憲次文部科学大臣ら政・官界代表の他に、在外国大公使並びに財界・著名な学者・研究者、言論界代表等1,000名強が出席して行われました。

式典は東京藝術大学音楽学部学生オーケストラが演奏する「日本国際賞式典序曲-Overture Japan」(三木稔作曲)で開会しました。

吉川弘之財団理事長の開会挨拶、熊谷信昭審査委員長による審査結果報告および受賞者の紹介の後、「地球環境変動」廣田勇部会長による贈賞理由の説明、また「治療技術の開発と展開」鴨下重彦部会長による贈賞理由の説明の後、両博士に日本国際賞の賞状、賞牌および副賞5,000万円(1分野に対し)が伊藤正男会長より贈られました。

受賞者挨拶でホートン博士は「自分がいわば、巨大なオーケストラ



の指揮者になったような気分を味わいました。しかし指揮者は演奏者なしでは何の役にも立ちません。このように素晴らしい演奏者である科学者の皆さまのお陰をもちまして、偉大な科学の「音楽」を生み出すことが可能になったのです。」と述べました。また遠藤博士は「スタチンの発見と開発では、度重なる困難に直面しましたが、多くの優れた医師と研究者たちに支えられて、数種のスタチンが製品化されました。その後、行われた数々

の大規模臨床試験で、スタチン治療が心筋梗塞と脳卒中を予防し、総死亡率を下げる事が立証され、世界中の多くの人々に用いられるようになりましたことは、無上の喜びでございます。」と受賞の喜びを表されました。

受賞者の挨拶の後、天皇陛下からお言葉を賜り、続いて河野衆議院議長が祝辞を述べられました。その後、受賞者と天皇皇后両陛下は客席で一緒に記念演奏をお楽しみになり、授賞式は閉会となりました。

天皇陛下のおことば

第22回日本国際賞の授賞式に当たり、「地球環境変動」の分野において、サー・ジョン・ホートン博士が、また、「治療技術の開発と展開」の分野において、遠藤章博士が、それぞれ受賞されたことを心からお祝いいたします。

ホートン博士は、地球を取り巻く大気の種類や構造、成分を人工衛星から測定するための新たな観測機器を開発し、地球規模での大気の状態の解明に大きく貢献されました。博士の開発された観測機器は、オゾン層の破壊や炭酸ガスの増加など、大気変動の監視に不可欠な役割を果たしております。博士は、その結果を基に、地球環境を守るための国際的な協力を進め、地球環境問題に対する認識を高めるためにも力を尽くしてこられました。



遠藤博士は、青カビの中から血中のコレステロール量を低下させる物質を発見し、これを薬として開発するために、様々な困難を乗り越えて粘り強い努力を続けられました。血中のコレステロール値が高いことは動脈硬化の原因となり、心筋梗塞や脳梗塞などを引き起こすことにつながります。博士の発見された物質は、現在広く服用されているスタチン系の薬のもととなり、これらの血管障害性疾患を世界中で激減させることを可能にしました。

ここに、環境と健康という人々の幸せに大きくかかわる問題について優れた業績を収められた両博士に対し、深く敬意を表します。

これからも日本国際賞が真の幸せをもたらす科学技術の発展に寄与することを願い、式典に寄せる言葉といたします。



天皇后両陛下御着



吉川理事長主催者挨拶



熊谷審査委員長審査結果報告



廣田部会長贈賞理由説明



鴨下部会長贈賞理由説明



河野衆議院議長祝辞



記念演奏をお聞きになる両陛下と受賞者



記念演奏

祝 宴

授賞式の同夜、東京・ホテルニューオータニ「鳳凰の間」において天皇皇后両陛下ご臨席のもと、政府代表、在日外国大公使および各界名士から約240名を招いて、盛大に祝宴が催されました。

伊藤財団会長の挨拶により開宴され、天皇陛下から受賞者の栄誉をたたえて乾杯のご発声を賜りました。

また、扇千景参議院議長から祝辞が述べられ、華やかな宴も和やかな雰囲気の中に終宴となりました。



祝宴の様子



天皇皇后両陛下御着



伊藤会長開宴の辞



扇参議院議長祝辞



ホートン博士謝辞



遠藤博士謝辞

2007年(第23回) 日本国際賞

2007年(第23回)日本国際賞授賞対象分野は「基礎研究が発信する革新的デバイス」および「共生の科学と技術」の2分野です。

現在、当財団に世界各国の有識者から受賞候補者の推薦状が多数寄せられています。財団に設置される2007年(第23回)日本国際賞審査委員会の審査を経たのち、受賞者の発表は来年1月、授賞式は同年4月を予定しています。

領域I 生産

「基礎研究が発信する革新的デバイス」

科学の基礎研究は、現代社会を支える礎として重要な役割を担っています。物理、化学などの基礎研究分野におけるブレークスルーは、時として革新的材料やデバイスとして結実し、それが新産業を生み出すことにつながります。

2007年の本賞は、独創的な基礎研究成果を新産業に結びつくような革新的デバイスの創製にまで発展させた業績を対象とします。

領域II 生命保全技術・生命環境

「共生の科学と技術」

生命体は細胞、個体、生態系として個別に生命現象の諸相を演出するだけではなく、他の生命体と直接的あるいは間接的に、競争的あるいは協調的な関係性を共有することによって生きています。安定した関係性の破綻は、生物圏のみならず、地球の物理化学的な環境の劣化にすらつながりうるものです。ここでは、単に生物学的な「共生 = symbiosis」という概念に限定せず、細胞、個体、生態系などさまざまな階層で演出される生命体間の共生、すなわち「共に生きる関係」を解析し、そのような共生関係の破綻とその修復に関する科学と技術に貢献した業績を顕彰します。具体的な事例としては、たとえば大気圏、水圏、土壌圏の劣悪化や新興感染症などの事象が生命体間の共生関係にもたらしている現象や、逆にこれらの事象をもたらすに至った生命体相互の関係の破綻なども広く包括するものです。

受賞者の思い出のアルバム

ホートン博士



▲ 庭にはお兄さんの温度計や雨量計があったそうです。(中央が博士)



▲ 23才で博士号取得(1955年)



▲ サッチャー首相とハドレー気候研究センターで(1990年)



▲ IPCCのワーキンググループ会議(2001年)



▲ シーラ夫人とウェールズの自宅で



▲ 孫のダニエル君(16才)と(2006年)

遠藤博士



ベニテングタケ ハエトリシメジ スギヒラタケ

(今岡六也ら編著「日本のきのこ」山と溪谷社、1990より)

▲ 博士のお気に入りキノコ



▲ 高校2年生(1952年)



▲ 卒業論文研究の合間に(1956年)



▲ 家族でマージャンを楽しむ博士(1981年)



▲ 恒例の研究室の夏旅行(1988年)



▲ 中国訪問の折(左が博士)



17日 受賞者歓迎レセプション

日本国際賞週間



18日 日本学士院表敬訪問



17日 合同記者会見

当財団では、4月17日(月)から22日(土)までを「日本国際賞週間」と称し、各種行事を行いました。



19日 学術懇談会



18日 内閣総理大臣表敬訪問



22日 京都の休日



19日 受賞記念講演会

■ 日本国際賞週間を学生ボランティアがサポート ■

日本国際賞は学生ボランティアの皆さんからも応援してもらっています。

今年の参加者は赤井大介さん(京都大学)、折原芳波さん(昭和大学)、片桐豪志さん(東京大学)、黒柳和之さん(東京大学)、佐野美和子さん(日本女子大学)、松村陽一さん(東京大学)、村剛さん(東京工業大学)、本吉

正幸さん(法政大学)です。以下は村さんに代表して感想を記載してもらいます。

両陛下がご臨席された授賞式はおごそかなものであり、大きな感銘を受けました。また、両博士とお話する機会をいただき、学術的な鋭さや厳しさに加え、一人の人間としての温かさを感じ取ることができました。



■ やさしい科学技術セミナー ■

本セミナーは、私たちの生活に関りのある、いろんな分野の先端技術などについて、その分野の専門家を講師にお招きしてわかりやすく解説していただくもので、学生から一般の方々を対象としております。

参加費無料

回数	開催日時	定員	場所	テーマ	講師
166	6月20日(火) 18:00-19:30	100	東京大学山上会館	大気微粒子と雲・降水	鈴木 健太郎 先生 東京大学気候システム研究センター研究員
167	8月28日(月) 13:00-14:30 終了後所内見学(50名限定、当日抽選)	180	海洋研究開発機構横浜研究所 三好記念講堂	地球温暖化と陸上生態系 ～生態学のモデルシミュレーションから～	伊藤 昭彦 先生 環境フロンティア研究センターサブリダー
168	9月26日(火) 18:00-19:30	150	パレスビル3階	慢性疲労の克服戦略	渡辺 恭良 先生 大阪市立大学大学院教授
169	11月28日(火) 18:00-19:30	150	パレスビル3階	外来種に脅かされる生物多様性	川道 美枝子 先生 生物多様性JAPAN

お申し込み方法

ホームページ(www.japanprize.jp)からお申し込みください。FAXをご希望の方は講演月を明記の上、住所、氏名、年齢、電話(FAX)番号を記入し、講演予定日の10日前までに当財団までお申し込みください。抽選結果は配信を持って替えさせていただきます。